



全国遊技機商業協同組合連合会  
会長

認定特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク  
代表理事

## 中村昌勇 × 西村直之氏

全商協による「RSN支援室」設置から約一年。  
予想を超える効果が明らかに。

今回は昨年12月に行われた認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワークの西村代表理事と全商協の中村会長による対談の模様をご紹介します。

全商協による「RSN支援室」の設置から一年余りが経過する中、お二人の間では、その成果や新たな取り組み等について意見が交わされました。

### 「RSN支援室」が果たす役割の大きさを改めて実感

中村 本日は東遊商広報誌の企画にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

のめり込みに起因する問題の発生防止がより強く求められている中、本日の対談を今後の活動に活かしていくことができればと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

さて昨年、全商協が立ち上げたRSN支援室も、その業務開始から一年余りが経過することとなりました。

私自身も日々、業務報告書に目を通して見ているのですが、寄せられた業界への意見や要望に触れる中で認識を新たにすることも多く、蓄積されたデータは今後、我々が向かうべき方向性を考える上でも大いに役立つものだと感じています。

そのことから、業界全体でこれを有効活用してもらいたいと定期的な報告業務も行っています。

西村 IIR推進法案が国会で審議される中、業界における依存問題にも焦点が当てられるなど、社会からの注目度は一段と高まっているようです。

その中で、RSN支援室の運営は、業

界が自ら問題解決に向けて積極的に取り組んでいるということを広く知ってもらう上でも重要なものだと思います。

また、遊技ファンに限らず、様々な人々と直接向かい合い、対応するという行為自体にも非常に大きな意義があると考えています。

近年、遊技業界に限らず、あらゆる産業において社会から厳しい目が向けられるようになりました。私が従事する医療の分野も例外ではありません。

その中で強く感じることは、患者側と十分なコミュニケーションをとることの大切さです。それをしっかりと行うことにより信頼感を持って治療を受けてもらうことができそうですし、高い満足度にもつながります。

現在、遊技業界では各団体、個々の企業により様々な地域・社会貢献活動が行われていますが、人々からより大きな信頼と理解を獲得するためには、誰からも愛される真の大眾娯楽を目指し取り組んでいる業界の姿について直接、伝えていくことも重要だと考えています。

その役割を果たしているという点でも支援室のもつ意義は非常に大きいと感じています。

### 全商協の結束力強化、活動拡充への原動力にも

中村 なるほど、そのとおりですね。

私自身も支援室の業務が今以上に広い分野で役に立てるものと、その可能性の大きさを感じています。

さらに、支援室の設立は全商協の活動自体にも、すばらしい影響を与えることとなりました。組織内の結束力が一段と



「全商協RSN支援室」で行われている電話対応業務の様子。





て「のめり込み防止ポスター」を製作し、配布を始めたことです。これにより我々の活動範囲は、より拡大することとなりました。

2つ目は、のめり込みの自己診断ができる「スマホ用アプリ」を開発し、提供を始めたことです。

これは遊びの中で生まれる問題は遊びの中で解決していこうということをやテーマに開発したもので、ホール内でスマホ

を片手に遊技をしている方が多いことにヒントを得ました。

登場するキャラクターもオリジナルで作るなど、十分に時間をかけて練り上げた内容となっています。

これまでRSNに電話をかけることに抵抗感を持っていた人でも、このアプリがあれば気軽に自分の状態を把握してもらうことができました。

また、ゲーム感覚でできるものなので、ホール・スタッフもお客様に勧めやすと思います。

中村 話題性もありますし、ユーザー同上の口コミで広がっていくことが期待できますね。

支援室の業務もRSN本体の活動と同様にレベルアップを図ることで、より大きく貢献できるものと考えています。

余商協では、他にも啓発ポケッ



RSN オリジナル・スマホ用アプリの提供も開始されました。



新たに製作されたホール従業員向けの「のめり込み防止ポスター」。



高まったのです。

各地区遊商のメンバーが自分たちの手で新たな機関を立ち上げ、業界に貢献しているということが、人ひとりの自信と誇りにつながり、より積極的な活動への原動力になっているのです。

熊本地震の被災地で実施した支援活動もその一つといえます。

と期待しています。

### RSN本体でも効率化が図られ新たな活動を開始

西村 それはすばらしいですね。

我々RSN本体の運営でも支援室の設置により大きな変化が生まれています。スタッフが相談業務だけに専念できるよ

うになりました。有名演歌歌手の方々に招いたイベントを自分たちの手で企画・運営し、大勢の人々に喜んでいただくことができました。

終了後には大勢の方々から感謝の声が寄せられ、携わった我々も充足感で満たされました。

これにより皆の意欲は一段と高まりました。それが今後の活動にも活かされていくもの



(上) 熊本地震の被災地支援として全商協が実施したイベントの様相。会場には多くの市民が来場しました。  
(左) イベント会場の設営を行う全商協メンバー。中村会長も作業に携わりました。

うになり効率化が図られました。そのような中、新たな活動も開始しています。

一つは、ホールで働く従業員に向け